

小鹿野町における地域資源を味わうモニターツアーの企画と実施

小鹿野町地区 東洋大学

1 活動目的

人口減少下の中山間地域の地域づくりにおいて地域資源の活用と関係人口の増加は喫緊の課題である。その道程には、必定、従来型の単眼的ではなく複眼的な学際性が求められることは言うまでもない。本活動の対象地とした小鹿野町もまた典型的な中山間地域であり、人口・世帯数はいずれも減少している一方、ダリアをはじめとする「花」や毘沙門水としても名高い「水」、そして、小鹿野歌舞伎をはじめとする豊かな地域資源に恵まれている。また、小鹿野高校による尾ノ内百景氷柱の活動支援等の地域づくり活動も活発である。

本活動は、これら一連の活動を支援すべく、長期的には、地域資源を活かした地域経済の活性化と関係人口の増加に資することをねらっている。また、(多少ではあるものの)地域経済活性化・関係人口増加に寄与すべく、年間で延べ50名の教員・学生が現地を訪ねることも目標に置いている。過年度の活動を通じて、申請者らは、潜在性の高い地域資源として宿場町に由来する建築や路地の魅力、また、特産品としてのカボスに対する地元の期待など見出してきたことも考え合わせ、今年度の活動では、建築・路地・カボスを活かした観光商品を企画、モニターツアーとして実施することを第一の目標とした。また、小鹿野高校をはじめとして申請者らが築いてきた人的ネットワークを強化・拡充することも目標に置いた。

2 活動地域の現状

小鹿野町における「地域資源を活用した観光振興による関係人口の増加」を一つの到達目標として据え置いた際、検討すべき重要な課題の一つに、「誰を対象にどのような施策を講じるか？」がある。この問いを念頭に置きつつ、「小鹿野町まち・ひと・しごと創生総合戦略」(小鹿野町(2016))を開くと、2005年以降、同町の生産年齢人口が顕著に減少し(2005年:8,744人、2015年:7,098人)、なかでも20歳代前半を中心とする若者世代(15歳から39歳)の転出が町人口の社会減を引き起こしている主因であることが分かる。

これまで小鹿野町では、地域住民の主体的な協力関係のもと、町内行事の開催や自治会運営などを含む多様な地域資源管理活動が継続されてきた。こうした活動の継続という視点から若者世代の「役割」を捉えると、若者世代とは、今はまだ活動の主力とはならずとも、将来的には活動をけん引していくことが期待される、潜在的かつ重要な担い手として位置づけられる。こうした「地域資源管理活動の将来」を担う若者世代の流出は、現行の地域資源管理活動の衰退を引き起こすだけでなく、持続的な地域社会システムの必要条件である「円滑な世代交代」を危ぶませる重大な課題だと考えられる。

3 活動内容

活動にあたっては、昨年度に引き続き、国際地域学科、国際観光学科、そして、川越キャンパスに拠を置く都市環境デザイン学科の教員5名(松丸亮・久松佳彰・神山藍・佐野浩

祥・新田将之・志摩憲寿)と各研究室・ゼミを中心とした学生によって支援隊を編成した。

本年度の活動は、昨年度に引き続き小鹿野高校とのワークショップを中心に展開し、オンラインでの夏の研修に加えて現地での冬の研修も実施した。具体的な内容等は次の通りである。

- ・夏の研修(写真1~2):小鹿野町の知られざる地域資源について学生ならではのPR動画をSNS(TikTok)で発信することで同じ年代の若者にも小鹿野町に対して興味を持ってもらうことをねらい、小鹿野高校の皆さんとオンラインワークショップを実施した。8月23日(事前学習)、27日(オンラインワークショップ)及び30日、31日(事後学習)にて行い、東洋大学より40名(うち1名は小鹿野高校卒業生)、小鹿野高校より19名が参加した。
- ・冬の研修(写真3~4):中山間地域の公共交通の待ち時間はしばしば問題視されるが、本研修ではこれを観光の機会と捉え、「バスを待つ1時間の間に楽しめる旅」を企画し、さらに、それらをポスターや動画として発信した。3月6日から7日にかけて現地調査を実施した。本研修には東洋大学より27名の学生が参加した。新型コロナウイルス感染症をめぐむる状況から小鹿野高校からの参加は叶わなかったが、後日、成果を共有するオンラインワークショップを開催することとしている。

さらに、本年度は消防団と地域づくりをテーマとした卒業論文を執筆した学生が現れたことから、小鹿野町役場の皆様にご参集いただき、成果報告を行なったことも特筆したい(写真5)。

4 成果

本年度の活動を通じて、夏の研修ではSNSでのPR動画という形で、冬の研修では旅の企画として、それぞれ小鹿野町の地域資源を発信することができたと感じている。例えば、夏の研修でPR動画は https://www.tiktok.com/@ogano_1 にて公開しており、是非ともご覧いただきたい。

人的ネットワークという点ではコロナ禍にも関わらずオンラインながらも小鹿野高校をはじめとする皆様と継続的に関係が構築された点も成果として強調しておきたい。

5 課題

昨年度と本年度の夏の研修はオンラインでの活動を余儀なくされてしまったため、小鹿野を知る学生が減少してしまったことが課題であったが、本年度の冬の研修で多少は克服できたものと思われる。

また、当初は本年度の活動は学生中心を謳っており、実際、夏の研修は学生主導で実施したが、新型コロナウイルス感染症への対応から(安全上は止むを得ないというものの)冬の研修は教員が主導する状況も見られた。

6 次年度以降の計画

次年度は4年間の活動の最終年に当たることとなり、これまでに築いた人的ネットワークに基づき活動を大きく展開させてゆく。とりわけ小鹿野高校の取り組む授業「総合的な探求」では、本活動に近い地域づくりもテーマの一つに含まれていることから、積極的にご一緒させていただく等により、本活動をより地元根付いた実践的に展開させてゆきたい。



写真1 夏のワークショップで作成した動画 (例)



写真2 夏のワークショップ



写真3 冬の現地研修



写真4 冬のワークショップの成果物 (例)



写真5 小栗野町役場での卒業論文発表